知識の書
知識探求者の諸作法

﴿ فضل العلم وآداب العالم والمتعلم ﴾

[日本語– Japanese – ياباني]

ムハンマド・イブラーヒーム・アッ＝トゥワイジュリー

翻訳 ： サイード佐藤

校閲 ： ファーティマ佐藤

2007 - 1428

islamhouse.com

﴿ فضل العلم وآداب العالم والمتعلم ﴾

« باللغة اليابانية »

محمد بن إبراهيم التويجري

ترجمة: سعيد ساتو

مراجعة: فاطمة ساتو

2007 - 1428

islamhouse.com

12－知識の書

● **知識の徳**：

1－至高のアッラーはこう仰られました：**アッラーは、あなた方の内で信仰する者たちと知識を与えられた者の位階を上げられる。アッラーはあなた方が行うことを実によく通暁されておられる。**（クルアーン 58：11）

2－アブー・ウマーマ・アル＝バーヒリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）のもとで、敬虔でイバーダ（崇拝行為）に熱心な 1 人の男と、1 人の学者が言及されました。するとアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました："敬虔でイバーダ（崇拝行為）に熱心な男に対する学者の優越性は、あなた方の内で最低の位階にある者に対する私の優越性のようなものである。" そしてアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました："実にアッラーとその天使たち、諸天地にある全ての存在は（地の）穴の中にいる蟻や（水の中に棲む）魚に至るまで、人々によいことを教える者を祝福する。"」（アッ＝ティルミズィーの伝承[1]）

● **知識を追求する者の徳、及びそれが言葉や行いに先立つこと：**

1－至高のアッラーはこう仰られました：**そしてアッラーの他に真に崇拝すべきものがないことを知り、あなたと男女の信仰者たちの罪を乞うのだ。アッラーはあなた方の（現世における）一挙一動も、あなた方の（来世における）行き先もご存知なのである。**（クルアーン 47：19）

2－至高のアッラーはこう仰られました：**そして言え、「主よ、私の知識をお増やし下さい。」**（クルアーン 20：114）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました："・・・そして知識を求めて道行く者は、アッラーが彼に天国への道を易しくしてくれるであろう。"」（ムスリムの伝承[2]）

● **正しい導きへといざなうことの徳：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「正しい導きへといざなう者には、それに従

[1] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（2685）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2161）。
[2] サヒーフ・ムスリム（2699）。

った者が得る報奨と同じ報奨が彼にも与えられる。そしてそれによって彼ら（導きに従った者たち）の報奨からは少したりとも差し引きされることはない。そして迷妄へといざなう者には、それに従った者が得る罪と同じ罪が彼にも与えられる。そしてそれによって彼ら（導きに従った者たち）の罪からは少したりとも差し引きされることはない。」（ムスリムの伝承[3]）

● **知識を伝達することの義務：**

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**これは彼らがそれでもって警告され、かれ（アッラー）こそが真に崇拝されるべき唯一の存在である事を知り、知識ある者たちが熟慮するための人々への伝達である。**﴾（クルアーン 14：52）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）の最後の巡礼に関する伝承の中で、彼がこのように言ったと伝えています：「・・・ここにいる者は（今私から聞いたものを）不在者に伝えよ。というのもこの場に居合わせた者は、それを彼より理解力の優れた者に伝達するかもしれないからである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[4]）

3－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「（クルアーンの）一句でもよいから、私（の伝えた言葉）を伝達するのだ。」（アル＝ブハーリーの伝承[5]）

● **知識を隠蔽する者に対する懲罰：**

1－至高なるアッラーはこう仰られています：﴿**実にわれら（アッラーのこと）が下した明証と正しい導きを、啓典において人々に明らかにした後に隠蔽する者たちは、アッラーのご慈悲から遠ざけられ、（天使や人々、その他の生物など）全てのものから見放されるであろう。しかし悔悟し、（行いを）改め、（隠蔽していたものを）明らかにする者たちは別であり、彼らに関してはわれが彼らの悔悟を受け入れるであろう。われはよく悔悟を受け入れる、慈悲深いお方である。**﴾（クルアーン 2：159－160）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“何らかの知識について訊ねられたのにそれを隠蔽した者は、審判の日にアッラーが彼に炎のくつわを嵌めさせられるであろう。”」（アブー・ダーウードとアッ＝ティルミズィーの伝承[6]）

---

[3] サヒーフ・ムスリム（2674）。
[4] サヒーフ・アル＝ブハーリー（67）、サヒーフ・ムスリム（1679）。文章はムスリムのもの。
[5] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3461）。
[6] 真正かつ良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（3658）、サヒーフ・スナン・アビー・ダーウード（3106）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2649）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2135）。文章はアブー。ダーウードのもの。

● アッラーのためでなくして知識を求める者への懲罰：

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**・・・そして知識のない人々を迷わせるがために、アッラーに対して（かれが合法とされたものを非合法であるなどとして）嘘をつくような輩ほど罪深い者があろうか？実にアッラーは（真理に対して）不正を働く者をお導きにはなられないのだ。**﴾（クルアーン 6：144）

2－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**そしてあなた方が語る言葉ゆえに（何の根拠もなく）「これは合法である。そしてこれは非合法である。」などと嘘をついてはならない。そうすればあなた方はアッラーに対して嘘をつくことになるであろう。実にアッラーに対して嘘をつく者たちは成功しない。（彼らには現世における）僅かな享楽があるが、（来世では）痛烈な懲罰が待ち受けているのである。**﴾（クルアーン 16：116－117）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました："私に対して意図的に嘘をつく者は、地獄の業火に居を構えさせよ。"」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[7]）

● 知識を学び、かつそれを教える者の徳：

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**しかし（本来の預言者というものは）こう言うのだ：「あなた方はあなた方が啓典について学識に秀で、かつ知識を求めている（その立場）ゆえにアッ＝ラッバーニー[8]となるのだ。」**﴾（クルアーン 3：79）

2－アブー・ムーサー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーが正しい導きと知識をもって私を遣わされた事は、あたかも大地に降った豊富な慈雨のようなものである。それで大地の中にはそれを吸収し、植物を沢山茂らせる肥沃なものもあれば、不毛の地であっても（水を吸収せずに）せき止め、それでもってアッラーが飲料や用水や灌漑などにおいて人を益するものもある。また別の土地は不毛かつ平坦で、水を蓄えることもなければ植物を茂らせることもない。そしてこれらはアッラーの宗教において理解を深めた者と、アッラーが私を遣わされたところのものでもって人を益し、知りかつ教えた者と、そしてそれにおいて知識を得ることもなければ私が遣わされたところのアッラーの導きをも受け入れなかった者たちの喩えなのである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[9]）

3－アブー・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にア

---

[7] サヒーフ・アル＝ブハーリー（110）、サヒーフ・ムスリム（3）。文章はムスリムのもの。

[8] 訳者注：アッラーの宗教に関する学識が豊かで、敬虔かつ教育熱心な者。

[9] サヒーフ・アル＝ブハーリー（79）、サヒーフ・ムスリム（2282）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

ッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“（次に述べる）2 人の者以外に羨望すべき者はいない：（1 人は）アッラーが財をお与えになられたが、自らの吝嗇を抑え、それを正しい道において使い果たした者。そして（もう 1 人は）アッラーが英知をお授けになり、それでもって行い、かつそれを教えた者である。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[10]）

● **知識の差し押さえとその形：**

1－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から聞いた話をしようか？あなた方は私の後、それを聞いた者たちからその話を聞くことはないだろう：“審判の日の予兆の 1 つは、（イスラームの）知識が押収され、無知が蔓延し、*ズィナー*（姦淫）が横行し、飲酒が見られることである。そして男 1 人に対して女 50 人になるまでに、男性の数が激減し、女性が残るであろう。”」　（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[11]）

2－アブドゥッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“実にアッラーは、しもべから知識を奪うようにして差し押さえられるわけではない。しかし学者たちを差し押さえることによって、知識を差し押さえられるのである。そして学者は 1 人としていなくなり、人々は無知な者たちを主導者として選ぶことになる。彼ら（無知な者たち）は質問されれば知識もなくして答え、自ら迷い、そして他の者たちをも迷わせるのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[12]）

● **宗教において理解を深めることの徳：**

１－フマイド・ブン・アブドゥッラフマーンはムアーウィヤ（彼にアッラーのご満悦あれ）が次のように言うのを聞きました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“アッラーは誰かによきものをお望みになる時、彼の宗教理解を深められる。アッラーこそが全てをお与えになられるお方であり、私はその分配役である。そしてこの *ウンマ*（イスラーム共同体）は、彼らに対する者たちに勝利し続けるであろう。アッラーのご命令がやって来るまで、彼らは勝利しているのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[13]）

2－ウスマーン（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「あなた方の内で最善の者は、クルアーンを学び、そし

---

[10] サヒーフ・アル＝ブハーリー（73）、サヒーフ・ムスリム（816）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[11] サヒーフ・アル＝ブハーリー（81）、サヒーフ・ムスリム（2671）。文章はムスリムのもの。
[12] サヒーフ・アル＝ブハーリー（100）、サヒーフ・ムスリム（2673）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[13] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3116）、サヒーフ・ムスリム（1037）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

てそれを教える者である。」（アル＝ブハーリーの伝承[14]）

● ***ズィクル*（唱念）の場の徳：**

現世には天国の楽園の一部である 2 つの楽園があります。その内 1 つは定着したものですが、もう 1 つは時と場所を超越してその都度更新されます。

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私の家と私の*ミンバル*（説教壇）との間には、天国の一部である楽園がある。そして私の*ミンバル*（説教壇）は私の水辺[15]の上に位置しているのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[16]）

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“天国の楽園に入ったら、その草を大いに食むのだ。”（教友たちは）言いました：“天国の楽園とは何ですか？”（アッラーの使徒は）言いました：“*ズィクル*（唱念）の（集まりの）場である。”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[17]）

3－アブー・フライラとアブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼らにアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が次のように言ったと証言しています：「人々が集まり座って偉大かつ荘厳なるアッラーを*ズィクル*（唱念）すれば、天使たちが彼らの周りを囲み、慈悲が彼らを覆うだろう。そして彼らのもとには静寂が訪れ、アッラーはかれの御許にある者たち[18]の中で彼らを褒めてつかわされるであろう。」（ムスリムの伝承[19]）

---

[14] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5027）。
[15] 訳者注：詳しくは「最後の日への信仰 - 預言者たちの水辺」の章を参照のこと。ちなみにこの伝承は、マディーナの預言者モスクのことを指しています。
[16] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1196）、サヒーフ・ムスリム（1391）。
[17] 良好な伝承。ムスナド・アフマド（12551）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3510）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2787）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（2562）参照。
[18] 訳者注：高貴な天使たちや預言者たちのことであると言われています。スナン・アビー・ダーウード解釈「アウヌ・アル＝マアブード」参照。
[19] サヒーフ・ムスリム（2700）。

知識探求者の諸作法

● 知識とはイバーダ（崇拝行為）です。そしてイバーダ（崇拝行為）にはそれが受け入れられるための、2 つの条件があります：つまり①至高のアッラーに対する イフラース（真摯さ）と、②アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の手法に則ることです。そして学者は預言者たちの後継者、と言われますが、知識にも様々なカテゴリーがあります。その中で最も位階が高く、栄誉高く、純粋なものが、預言者たちと諸使徒が提供したところのアッラーとその美名、その属性、その行為、その宗教、その法規定に関する知識なのです。

至高のアッラーはこう仰られました：﴿**そしてアッラーの他に真に崇拝すべきものがないことを知り、あなたと男女の信仰者たちの罪を乞うのだ。アッラーはあなた方の（現世における）一挙一動も、あなた方の（来世における）行き先もご存知なのである。**﴾（クルアーン 47：19）

● 知識にも諸作法があります。その中には知識自体に関するものもあれば、それを学ぶ者に関するものもあります。そして以下に示すものはそれらに関しての概略なのです。

１－教師の諸作法

● **謙遜と慎み深さ：**

至高のアッラーはこう仰られました：﴿**そしてあなたに従う信者たちに慎み深くあれ。**﴾（クルアーン 26：215）

● **高い人格：**

1－至高のアッラーはその預言者にこう仰られました：﴿**そしてあなたはこの上ない人格を備えている。**﴾（クルアーン 68：4）

2－至高のアッラーはその預言者にこう仰られました：﴿**許しの心を持ち、善を命じ、無知な者たちから遠ざかれ。**﴾（クルアーン 7：199）

● **人々が飽きたり離れて行ったりしないよう、知識と訓戒の伝授において適当な時節を選ぶこと：**

イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は私たちが退屈するのを嫌って、私たちに訓戒を与える（適当な）時を日々の中から選んでいました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[20]）

- **（教授において）十分な声を上げ、人々が理解出来るよう 2 回 3 回と繰り返すこと：**

1－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちのある旅路において、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が私たちの後方を歩んでいたことがありました。そして彼が私たちに追いついた時、*サラー*（礼拝）の時間が来て、私たちは*ウドゥー*[21]をしました。そして私たちが足を（きちんと洗わずに）軽く撫でて済ませようとすると、（預言者は）大きな声で 2 回か 3 回こう言いました："地獄の業火に晒される踵に、災いあれ[22]。"」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[23]）

2－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は何か話す時には、人々が理解出来るよう 3 回繰り返したものでした。そして人々のもとを訪れた時には、彼らに 3 回挨拶したものでした。（アル＝ブハーリーの伝承[24]）

- **忌むべき物事を眼にしたり耳にしたりした時、訓戒や教授において怒りを表現すること：**

アブー・マスウード・アル＝アンサーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある男がいいました："アッラーの使徒よ、何某は礼拝（を率いる際にそれ）をとても長引かせるので、私は（集団）礼拝に参加するのが億劫です。" そして私はその日ほど、預言者が訓戒において激しい怒りを表したのを見た事がありませんでした。彼は言いました："人々（礼拝を率いる者たち）よ、あなた方は（礼拝者たち）に嫌な思いをさせている。人々を礼拝で率いるのなら、軽く済ませるのだ。彼らの中には病人や弱者や用事のある者たちもいるのだから。"」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[25]）

- **時には質問された以上のことを答えること：**

イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、ある男がアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）に訊ねました：「"*ムフリム*[26]は何を衣服としてま

---

[20] サヒーフ・アル＝ブハーリー（68）、サヒーフ・ムスリム（2821）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[21] 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。
[22] 訳者注：つまり足も含め、洗浄すべき体の部位をきちんと洗うようにとの注意を意味しています。
[23] サヒーフ・アル＝ブハーリー（60）、サヒーフ・ムスリム（241）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[24] サヒーフ・アル＝ブハーリー（95）。
[25] サヒーフ・アル＝ブハーリー（90）、サヒーフ・ムスリム（466）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[26] 訳者注：巡礼を行う時の特別な状態にある者。

といますか？”アッラーの使徒は言いました：“シャツもターバンもズボンもフード付きのローブもまとうのではない。また靴のない者以外は、靴下も履いてはならない。そのような者（靴のない者）は靴下を履き、それをくるぶし下まで切り取るのだ。そしてサフランや香草（つまり香水）のついた衣服もまとってはならない。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[27]）

● その知識を試すために、教師が質問すること：

イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“木々の中には葉の落ちることのない、1 本の木がある。そしてそれはムスリムのようである。それが何か話してくれ。”すると人々の考えは、砂漠の木々に向かいました。私（イブン・ウマル）はそれがナツメヤシの木であると思いましたが、羞恥心ゆえにそれを言い出すことが出来ませんでした。それから（教友たちは）言いました：“アッラーの使徒よ、それが何なのか教えて下さい。”（預言者は）言いました：“それはナツメヤシの木である。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[28]）

● 一般人に向けて間際らしい事を言わないこと。また誤解される恐れがあるのなら、ある種の人々にはある種の知識には言及しないでおくこと：

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）とムアーズは乗り物用の家畜に相乗りしていました。「（預言者は）言いました：“ムアーズ・ブン・ジャバルよ。”（ムアーズはこう）3 回言いました：“はい、アッラーの使徒よ。何でも仰せつかわし下さい。”（預言者は）言いました：“誰でも心から正直に「*ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラスールッラー*（アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはそのアッラーの使徒である）」と証言する者は、アッラーが彼に地獄を禁じられるであろう。”（ムアーズは）言いました：“アッラーの使徒よ、このことを人々に伝えて喜ばせてもよいでしょうか？”（預言者は）言いました：“（そうするのではない、彼らは）それに頼り切って怠けてしまうからな。”そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の死後、ムアーズは自らが罪深くあるのを恐れ、そのことについて人々に伝えました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[29]）

● もしそれよりも悪いことが起きる恐れがあれば、ある悪事の矯正をひとまず放っておくこと：

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は彼女にこう言いました：「アーイシャよ、もしあなたの民が*ジャーヒリ*

[27] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1542）、サヒーフ・ムスリム（1177）。文章はムスリムのもの。
[28] サヒーフ・アル＝ブハーリー（61）、サヒーフ・ムスリム（2811）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[29] サヒーフ・アル＝ブハーリー（128）、サヒーフ・ムスリム（32）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

ーヤ（イスラーム以前の無明時代）から（イスラームへと）抜け出たばかりの者たちでなければ、私はカアバ神殿を一旦壊すよう命じ、そこから出されたものをそこへと戻し、そして地面にくっつけ、東西に 2 つの門を付け、イブラーヒーム（がそれを建設したところ）の基盤の上にまでそれを拡張したことであろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[30]）

● **男女別に教授すること：**

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「女性たちが預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）に言いました：“あなたを男性たちに取られてばかりなので、1 日だけでも私たちのために当てて欲しいのですが。”それで預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はある日約束をし、彼女たちと会う機会を持ちました。彼は彼女たちに訓戒を与え、命じましたが、その中でこのように言いました：“3 人の子供に先立たれた女性は、彼らが彼女のために地獄を遮る覆いとなってくれるだろう。”するとある女性が言いました：“（先立たれたのが）2 人だったらどうですか？”（預言者は）言いました：“2 人でも、である。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[31]）

● **昼夜を問わず、滞在中でも旅行中でも人々に訓戒を与え、教えること：**

1－ウンム・サラマ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）はある晩起き出すと、こう言いました：“崇高なるアッラーに讃えあれ。今夜（私に）啓示された（近く起こるであろう）試練の何と恐ろしいことか。そして何という数々の（恩恵という）宝庫の（扉）が（近く）開かれることか。私の妻たちを起こすのだ。現世で上等な衣をまとっている女性も、来世では素っ裸かもしれないのだから。”」（アル＝ブハーリーの伝承[32]）

2－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はその晩世に、イシャー（夜の礼拝）を率いました。そしてそれが終わると、立ち上がって言いました：“あなた方はこの日の夜を見たか？現在地上にある者たちの誰も、100 年後には生き長らえてはいないのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[33]）

3－ムアーズ・ブン・ジャバル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）と共に、“ウファイル（灰色）”と名付けられた 1 頭のロバに同乗していました。そして彼は言いました：“ムアーズよ、アッラ

---

[30] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1586）、サヒーフ・ムスリム（1333）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[31] サヒーフ・アル＝ブハーリー（101）、サヒーフ・ムスリム（2633）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[32] サヒーフ・アル＝ブハーリー（115）。
[33] サヒーフ・アル＝ブハーリー（116）、サヒーフ・ムスリム（2537）。文章はムスリムのもの。

ーのそのしもべに対する権利と、しもべのアッラーに対する権利を知っているか？”私は言いました：“アッラーとその使徒がご存知です。”（預言者は）言いました：“アッラーのそのしもべに対する権利とは、しもべがかれを崇め、そこにおいて何ものをもかれと共に配さないことである。そしてしもべの偉大かつ荘厳なるアッラーに対する権利とは、何ものをもかれと共に配さなければ、かれがしもべを罰せられない、ということである。”私は言いました：“アッラーの使徒よ、このことを人々に伝えて喜ばせてもよいでしょうか？”　（預言者は）言いました：“(そうするのではない、彼らは）それに頼り切って怠けてしまうからな。”」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[34])

● 集まりの場の締めくくりに言う *ドゥアー*（祈願）と *ズィクル*（唱念）：

1－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、教友たちのために（次のような） *ドゥアー*（祈願）の言葉でもって祈願するまでは、集まりの場を立つことは滅多にありませんでした：“アッラーよ、私たちとあなたへの不服従との間を阻む、あなたへの畏怖の念を私たちにお与え下さい。そして私をあなたへの天国へと到達させてくれる、あなたへの服従を。そしてあなたがそれでもって現世での災難を和らげて下さる、（あなたの宗教への）確信を。またあなたが私たちを生かし続けて下さる間、私たちにその聴覚と視覚と力を堪能させて下さい。そしてそれを末永く継続させて下さい。また私たちを抑圧する者たちにお報いを与え、私たちを敵に勝利させて下さい。そして私たちの宗教において災厄を被らせないで下さい。現世を私たちの最大の関心事や、学識の目的としないで下さい。そして私たちをいたわらない者を、私たちの統治者としないで下さい。”」(アッ＝ティルミズィーの伝承[35])

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“下らない戯言の多い集まりに参加した者で、そこを立つ前に：「アッラーよ、崇高なあなたを賛美と共に讃えます。あなたの他に真に崇拝すべきものはないと証言し、あなたのお赦しを乞い、あなたに悔悟します。」と言った者は、その集まりにおいて起こった（罪深い）ことに対してのお赦しを得るであろう。”」(アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[36])

2－学徒の諸作法

● 学徒の座り方：

1－ウマル・ブン・アル＝ハッターブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：

---

[34] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2856）、サヒーフ・ムスリム（30）。文章はムスリムのもの。
[35] 良好な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（3502）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2783）。サヒーフ・アル＝ジャーミゥ（1268）参照。
[36] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（10420）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3433）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2730）。文章はアッ＝ティルミズィーのもの。

「私たちがある日アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共にある時、純白の衣服をまとい、漆黒の髪の 1 人の男が私たちのもとに現れました。彼には旅の形跡はありませんでしたが、私たちの誰 1 人として彼を知る者はいませんでした。彼は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとまでやって来ると、彼の両膝を両膝につき合わせるようにして座り、彼の両手をその両腿の上に置きました・・・(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[37])

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、ある時アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が外出した時、アブドッラー・ブン・フザーファが彼にこう質問しました：「“私の父は誰ですか？”すると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“あなたの父はフザーファだ。”それから多くの者が彼を（好ましくない質問でもって）質問攻めにすると、（預言者は立腹して）言いました：“質問するがよい。”するとウマルは跪き、言いました：“私たちはアッラーが主であることに、またイスラームが宗教であることに、そしてムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が預言者であることに満足しました[38]。”すると（預言者は）沈黙しました。」(アル＝ブハーリーの伝承[39])

● **学問の席やモスクにおける訓戒や唱念の場などに積極的に参加すること、及びそのような場で座るべき場所：**

ウバイ・ワーキド・アッ＝ライスィー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がモスクで人々と共に座っている時、3 人の男たちがやって来ました。その内の 2 人はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとへと赴きましたが、1 人は行ってしまいました。そして 2 人はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとで立ち止まり、1 人は人々の輪の中に空いている場所を見つけてそこに座り、もう 1 人は彼らの後ろに座りました。一方 3 人目の男はといえば、立ち去ってしまいました。アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（話し）終わると、言いました：「(件の) 3 人の男について話そうか。彼らの内の 1 人はアッラーの御許へと向かい、アッラーは彼を迎え入れた。もう 1 人は恥ずかしがったため、アッラーも彼から恥ずかしがられた。一方もう 1 人はと言えば、背いて立ち去ったため、アッラーも彼から背き立ち去られたのだ。」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[40])

● **訓戒や唱念、学習の場などで輪になって座ること：**

---

[37] サヒーフ・アル＝ブハーリー (50)、サヒーフ・ムスリム (8)。文章はムスリムのもの。
[38] 訳者注：別の伝承ではこの件に関して、クルアーンの《信仰する者たちよ、もしそれが明らかになれば、あなた方にとって都合の悪くなるようなことを質問するのではない。》という啓示が下ったとの言及があります。ウマル（彼にアッラーのお悦びあれ）の言葉は、アッラーとその使徒が伝えられるものだけで満足し、余計な質問はする必要がない、というムスリムとしての彼の理想的な態度を表明したものでした。
[39] サヒーフ・アル＝ブハーリー (93)。
[40] サヒーフ・アル＝ブハーリー (66)、サヒーフ・ムスリム (2176)。文章はアル＝ブハーリーのもの。

アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“天国の楽園に入ったら、その草を大いに食むのだ。”（教友たちは）言いました：“天国の楽園とは何ですか？”（アッラーの使徒は）言いました：“*ズィクル*（唱念）の（集まりの）場である。”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[41]）

● **学者や年長者を敬うこと：**

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**信仰する者たちよ、あなた方の声を預言者の声よりも高く上げてはならない。そしてあなた方が互いにするようなあからさまな形で、彼にものを言ってはならない。そうすればあなた方が知らぬ間に、あなた方の行いは無に帰してしまうであろう。**﴾（クルアーン 49：2）

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある年配の男が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に会うためにやって来ましたが、人々はすぐには彼のために席を空けませんでした。それで預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“年少の者を可愛がらず、年配の者を敬わない者は私たちの内の者ではない。”」（アル＝ブハーリーとアッ＝ティルミズィーの伝承[42]）

3－ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「年配者を敬わず、年少者を可愛がらず、学者に対して礼を欠く者は、私たちの内の者ではない。」（アル＝ハーキムの伝承[43]）

● **知識を備えた者の話を傾聴すること：**

ジャリール（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は別れの説教の中で彼にこう言いました：「“人々の言うことをよく聴くのだ。”そして（続けて）言いました：“私の（死）後、互いの首を討ち合う不信仰者に舞い戻ってはならない。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[44]）

● **知らないことを聞いたら、それを知っている者に分かるまで聞くこと：**

---

[41] 良好な伝承。ムスナド・アフマド（12551）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3510）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2787）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（2562）参照。
[42] 真正な伝承。アル＝ブハーリーのアル＝アダブ・アル＝ムフラド（363）、サヒーフ・アル＝アダブ・アル＝ムフラド（272）、スナン・アッ＝ティルミズィー（1919）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（1565）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（2196）参照。文章はアッ＝ティルミズィーのもの。
[43] 真正な伝承。ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（421）、サヒーフ・アッ＝タルギーブ・ワ・アッ＝タルヒーブ（95）。
[44] サヒーフ・アル＝ブハーリー（121）、サヒーフ・ムスリム（65）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

イブン・アビー・ムライカは、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の妻アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）が何か彼女の知らないことを聞いたら、それが分かるまで追求し続けたこと、そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が「（審判の日）清算を受ける者は皆罰を受ける。」と言ったことに関し、アーイシャが「至高のアッラーは﴿**それでその帳簿を右手に受け取る者は、その清算を易しくされるだろう。**﴾と仰られたではありませんか？」と問い、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が「それは提示である。清算において議論される者は、破滅するのだ。」と答えたことを伝えています。（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[45]）

● **クルアーンやその他の学んだ知識を忘れないよう努力すること：**

1－アブー・ムーサー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「常にクルアーンと共にあれ。私の魂がその御手に委ねられているお方にかけて。それは縛り綱につながれたラクダよりも素早く逃げ去ってしまうものなのだから。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[46]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）から 2 つの入れ物（つまり伝承のこと）を受け継ぎ、それらを守護した。その 1 つは既に伝えたものであり、もう 1 つはもし口外すればこの食道が断ち切られるところのものである[47]。」（アル＝ブハーリーの伝承[48]）

● **集中し謹聴すること：**

至高のアッラーはこう仰られました：﴿**実にその中には理性を備え、よく聴き、集中して理解に努める者たちへの訓戒があるのである。**﴾（クルアーン 50：37）

● **学究のために旅立ち、そこにおける困難に耐え、知識の更なる増加を求め、あらゆる状況において慎ましくあること：**

イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“ムーサーがイスラエルの民の者たちといると、1 人の男がやって来た。彼は（ムーサーに）言った：「あなたより学識ある者を知っているか？」ムーサーは言った：「いや。」するとアッラーはム

[45] サヒーフ・アル＝ブハーリー（103）、サヒーフ・ムスリム（2876）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[46] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5033）、サヒーフ・ムスリム（791）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[47] 訳者注：「もし口外すればこの食道が断ち切られる」伝承とは、不正と抑圧の徒党の悪を批判する類のもので、彼らがそれを聞けば彼を打ち首にしてしまうような意味の伝承、あるいは余りに衝撃的な様々な恐怖を描写している審判の日や来世に関する伝承ではないか、といった説がありますが、真相は不明です。いずれにせよ、教友アブー・フライラ（彼にアッラーのお悦びあれ）はイスラームにおける大きな禁忌である「知識の隠蔽」を行うはずはありませんから、その伝承が全く知られていないものであることはないでしょう（イブン・ハジャル著サヒーフ・アル＝ブハーリー解釈「ファトゥフ・アル＝バーリー」参照）。
[48] サヒーフ・アル＝ブハーリー（120）。

ーサーにこう啓示された：「いや。われらがしもべ*ハディル*がいる。」ムーサーは彼に会う方法を尋ね、そしてアッラーは1匹の魚をその目印とされた。

そして（アッラーはムーサーに）仰った：「あなたが魚を見失った時、（道を）戻るのだ。そうすればあなたは彼と出会えるだろう。」そしてムーサーは（小間使いの若者を連れて）海に魚の跡を追った。すると若者はムーサーに言った：「ほら、岩（の所）で休んだ時があったでしょう？私は（その時）魚を忘れて来てしまったのです。私にそれを思い出すのを忘れさせたのは、シャイターン（悪魔）以外の何者でもありません。」（ムーサーは）言った：「それこそ私たちの望んでいるもの。」そして来た足跡を辿って戻って行くと、2 人は*ハディル*を見つけました。これが偉大かつ荘厳なるアッラーが、その啓典の中で語られた出来事の1部です。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[49]）

● 知識を貪欲に求めること：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「誰かが言いました：“アッラーの使徒よ、審判の日にあなたのとりなしにおいて最も良き目を見るのは誰でしょうか？”アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“アブー・フライラよ、あなたのハディース（預言者の伝承）に対する熱意は知っている。私はあなたより先に、このことについて誰かが私に訊ねるとは思っていなかったのだ。審判の日に私のとりなしにおいて最も良き目を見るのは、「*ラー・イラーハ・イッラッラー*（アッラーの他に真に崇拝すべきものはない）」と心、あるいは魂から真摯に告白した者である。”」（アル＝ブハーリーの伝承[50]）

● 知識を書にしたためること：

1－アブー・ジュハイファは言いました：「私はアリーに言いました：“あなた方のもとに本はありますか？”（彼は）言いました：“いいえ。クルアーンと、ムスリムが（それについて）理解したところのものと、これらの書だけです。”私は言いました：“これらの書には何が書いてあるのですか？”（彼は）言いました：“血債と捕虜（についての法規定）です。そしてムスリムが（報復刑において）不信仰者ゆえに死刑に処される事はありません。”」（アル＝ブハーリーの伝承[51]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）の教友たちの中で、彼からの伝承を私より多く伝える者はない。しかしアブドッラー・ブン・アムルだけは別だ。彼は（伝承を）書き留めていたが、私は書き留めていなかったのだ。」（アル＝ブハーリーの伝承[52]）

---

[49] サヒーフ・アル＝ブハーリー（74）、サヒーフ・ムスリム（2380）。文章はアル＝ブハーリーのもの。
[50] サヒーフ・アル＝ブハーリー（99）。
[51] サヒーフ・アル＝ブハーリー（111）。
[52] サヒーフ・アル＝ブハーリー（113）。

● **自ら質問するのがためらわれるようなことを、誰か他の者に頼んで訊いて貰うこと：**

アリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はよく（精液の発射に先駆けて出る）潤滑液を漏らしてしまう性質であったが、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）にそのことを訊ねるのは、彼の娘が私の妻であったゆえにためらわれた。それで私はアル＝ミクダード・ブン・アル＝アスワドに頼み、そのことを彼に訊いて貰った。すると彼は（預言者がこう言ったと）言った：“男性器を洗浄し、*ウドゥー*[53]をするのだ。”」

● **イマームが説教する時、彼の近くにあること：**

サムラ・ブン・ジュンドゥブ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「説教の場に参加し、イマームに近づくのだ。人間というものは（理由もなく善行から）遠ざかり続け、しまいには天国には入れさえすればいいとして、そこにおける位階においてまで控え目になってしまうのだから。」（アブー・ダーウードの伝承[54]）

● **（イスラーム法にかなう）集まりにおける諸作法：**

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**信仰する者たちよ、集まりの場で「場所を空けて下さい。」と言われたら、場所を空けてやるのだ。（そうすれば）アッラーがあなた方のために（天国の）場所を空けて下さるであろう。そして（礼拝、あるいはジハードなどのために）「立ち上がりなさい。」と言われたら、立ち上がるのだ。アッラーは、あなた方の内で信仰する者たちと知識を与えられた者の位階を上げられる。アッラーはあなた方が行うことを実によく通暁されておられる。**﴾（クルアーン 58：11）

2－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「自分がそこに座るために、誰かが座っているのを立たせてはいけない。しかし場所を広げ、（その者が座れるだけの）空き場所を作ってやるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[55]）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「座っている場所から立ち上がり、またそこへ戻ってきた者は、その場所においてより優先権がある。」（ムスリムの伝承[56]）

4－ジャービル・ブン・サムラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちが預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとを訪れると、ある者たちは（集まり

---

[53] 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。
[54] 良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（1108）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（980）。
[55] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6270）、サヒーフ・ムスリム（2177）。文章はムスリムのもの。
[56] サヒーフ・ムスリム（2179）。

の場の）一番端にまで行って腰を下ろしたものです。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[57]）

5－アムル・ブン・シュアイブ（彼らにアッラーのご満悦あれ）がその父、その父がその祖父、その祖父がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えるところによると、彼はこう言いました：「2 人の男の間に座る時は、彼らの許しを請うのだ。」（アブー・ダーウードの伝承[58]）

6－アッ＝シャリード・ブン・スワイド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）が私たちのもとにやって来た時、私はこのように座っていました：つまり左手を背中の後方に回し、両手の掌でもって体を支えていました。すると彼は（私に）こう言いました：“アッラーがお怒りになられた者たちの座り方をするのか？”」（アフマドとアブー・ダーウードの伝承[59]）

7－イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“あなた方が 3 人でいる時、1 人をそっちのけにして 2 人だけで内緒話をしてはいけない。そのようなことは彼を悲しませるであろうから。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[60]）

---

[57] 真正な伝承。スナン・アビー・ダーウード（4825）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（4040）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2725）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2193）。

[58] 良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（4844）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（4054）。

[59] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（19683）、スナン・アビー・ダーウード（4848）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（4058）。

[60] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6290）、サヒーフ・ムスリム（2184）。文章はムスリムのもの。